

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：ウィズブック保育園戸部	種別：認可保育所	
代表者氏名：駒 生子	定員（利用人数）： 60 名	
所在地：横浜市西区伊勢町3-133-1シティテラス横濱サウスザ・ガーデン1F		
TEL：045-315-3063	ホームページ http://wb-hoikuen.jp/tokyo/tobe	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2019年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社アイ・エス・シー		
職員数	常勤職員： 17 名	非常勤職員 4 名
専門職員	園長 1 名	保育士 15 名
	看護師 1 名	栄養士 3 名
	調理員 1 名	
施設・設備 の概要	（居室数） 保育室6室	（設備等） 事務室、調理室、調乳室など

③理念・基本方針

1. すべての子どもには無限の可能性があります。私たちは、それを引き出し「その子らしさと自ら伸びるチカラ」を育みます。
2. 私たちは、「子育てに頑張る保護者様や家族の成長」に、寄り添い支援する存在であり続けます。

④施設・事業所の特徴的な取組

1. オリジナル絵本の読み聞かせから広がる体験活動（With Bookプログラム）に力を入れています
2. パパママも子育てを学んで一緒に成長し、子育てをもっと楽しくすることを目指しています。（保護者会など「子育て学」を学べる機会を作ります）
3. 子育てに頑張るパパママに寄り添い支援するために、先生たちも学びます（子育ての専門家「CFC(チャイルド・ファミリー・コンサルタント)養成講座」を修了した保育士が複数在籍しています

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年 5月 12日（契約日） ～ 2022年 3月 8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆ 子どもたちの主体性を育むプログラムに全クラスで取り組んでいます

0歳児クラスから絵本に親しみ、法人作成のオリジナル絵本の読み聞かせから広がる体験活動（With Bookプログラム）につなげています。これは子どもの発想を引き出し、保育を展開させるもので、自発性を大切にしています。5歳児クラスまで一貫した流れで子どもたちの主体性、その子らしさを育むプログラムです。全クラスでこのプログラムに取り組み、保育の基盤としています。全クラスの保育士が毎日の日案にウィズブックの活動案を立て、その日のねらい、ポイントを定め、活動は「動機付け」「遊び」最後に「意識付け」をします。それぞれの内容・言葉がけ、準備物、注意点を記入します。主任がこれに目を通して助言し、各クラスで実践し、振り返る、という過程の日々の積み重ねを通して、保育士自身が育ち、子どもたちの育ちにつながっていきます。開園3年目の現在、乳児クラスはいまだ試行錯誤の段階ですが、幼児クラス、特に5歳児クラスではある程度の成果が見られています。プログラムの内容は保育室から園外へと展開し、4歳児クラスにも波及しています。

◆ 職員の主体性を重んじ、働きやすい職場を目指しています

法人のポリシーとして職員の主体性を重視するようになっており、加えて園長のポリシーとして職員には自分で主体的に考える事を常に促すようにしています。各職員の目標管理をミッションシートという仕組みによって実現しています。ミッションシートによる目標管理のために半年に1回の園長との面談があり、この際に職員の希望をヒアリングするほか、別途機会を設けて職員の要望を聞き、悩みを持つ職員には園長が積極的に話をしています。形式的な指導をするのではなく、本人の希望に沿った形で選択肢を示しながら本人の主体的な判断を促しています。また、職員の働きやすさを重視した人事制度となっており、労働時間や休暇の取り方など多くの点でワーク・ライフ・バランスが配慮されています。職員から「有給休暇が取りやすい」との声も聞こえています。

◆ 事故の予防に力を入れています

看護師が中心となってヒヤリハットの確認や研修に力を入れ、園全体の事故予防に取り組んでいます。各クラスの保育士が毎日ヒヤリハットの事例を看護師に提出します。看護師は内容を確認し、集計し、気になる事例を抽出して毎月職員会議で報告して振り返りを行い、保育士等と共有し、全員で分析・検討し、翌月の事故予防につなげています。法人では、マニュアルの見直しを年に1度行い、各園で起きた事故を分析・検討したものを、各園長に報告し周知しています。そのような取組で園ではヒヤリハットを日々職員が意識し、安全確保や事故防止に努めています。

◇改善を求められる点

◆ 保護者・地域との連携に更なる取組が期待されます

保護者とのコミュニケーションは連絡帳や日々の登降園時の会話を大切にし、保護者からの意見や要望は、クラスで分析・検討しています。結果を、職員会議で報告・共有し、内容によっては話し合いを行い、信頼関係の構築に努めています。また日々の保育活動の様子をクラスごとに写真を添えて掲示し、保護者会、個人面談も実施しています。しかしコロナ禍のために親子遠足や保育参加、運動会等種々の行事は実施できませんでした。オンラインによる配信も取り入れましたが、保護者対応の基本としている「子どもたちの様子を細かく伝え安心感を与える」「喜びを共有する」という面で十分な対応が難しい状況にあります。コロナ禍において、まだできることがないか、工夫の余地がないか、などの検討とともに、保護者の意見・要望を収集・分析し、真の保護者ニーズを把握し、ともに子育てをしていくための保護者との連携の強化が期待されます。

また地域との連携もコロナ禍のためにほとんどが中止になっています。今後は様々なコミュニケーション手段を用いて社会資源との関係づくりに取り組み、地域ニーズを把握しながら、園として地域ニーズに応えられる手段を検討し、地域と共に発展していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開所3年目進化する園での受審でしたので、少しの不安はありましたが、書類の作成や訪問していただき、保育を見て頂くことで、これから取り組むべき事案が明確になってきました。

保育においては、高評価を頂き、子どもの主体性を大事に個々の気持ちに寄り添って行う保育を会社独自の資格を全員が持つという点で共通意識をもって保育にあたることができていることが立証できたのかなと嬉しく思っています。保育士の働く環境「残業をしない」「休みが取れやすい」についても皆さんが満足されていることが分かりました。コロナ禍という中での保育をどう展開するのかということ慣れない中での試行錯誤で保護者支援、地域支援の面では手薄になっていたこと、運営に関しての職員の意識、直接に関係のあることに関しては発信していましたが、今後はできる限りの情報を発信していきより気持ちよく働ける職場環境を作っていきたいと考えています。最後に、保育・職場環境においてはよくできていて、後は保護者支援・地域支援に力をいれてくださいというお言葉を頂き3年で土台ができてきているという確認ができた事は受審してよかったと思います。

本当にありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり